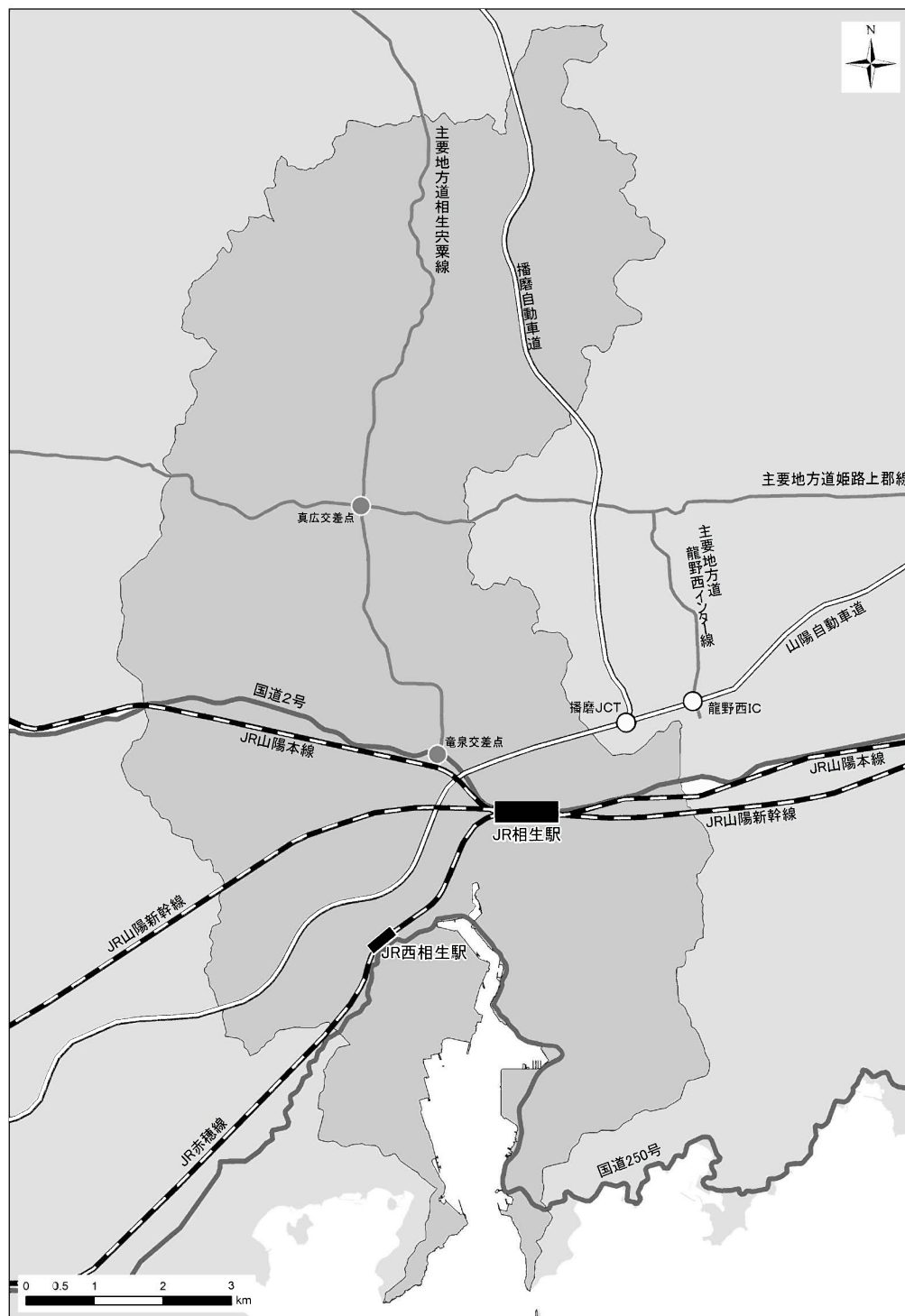


2-4 交通条件

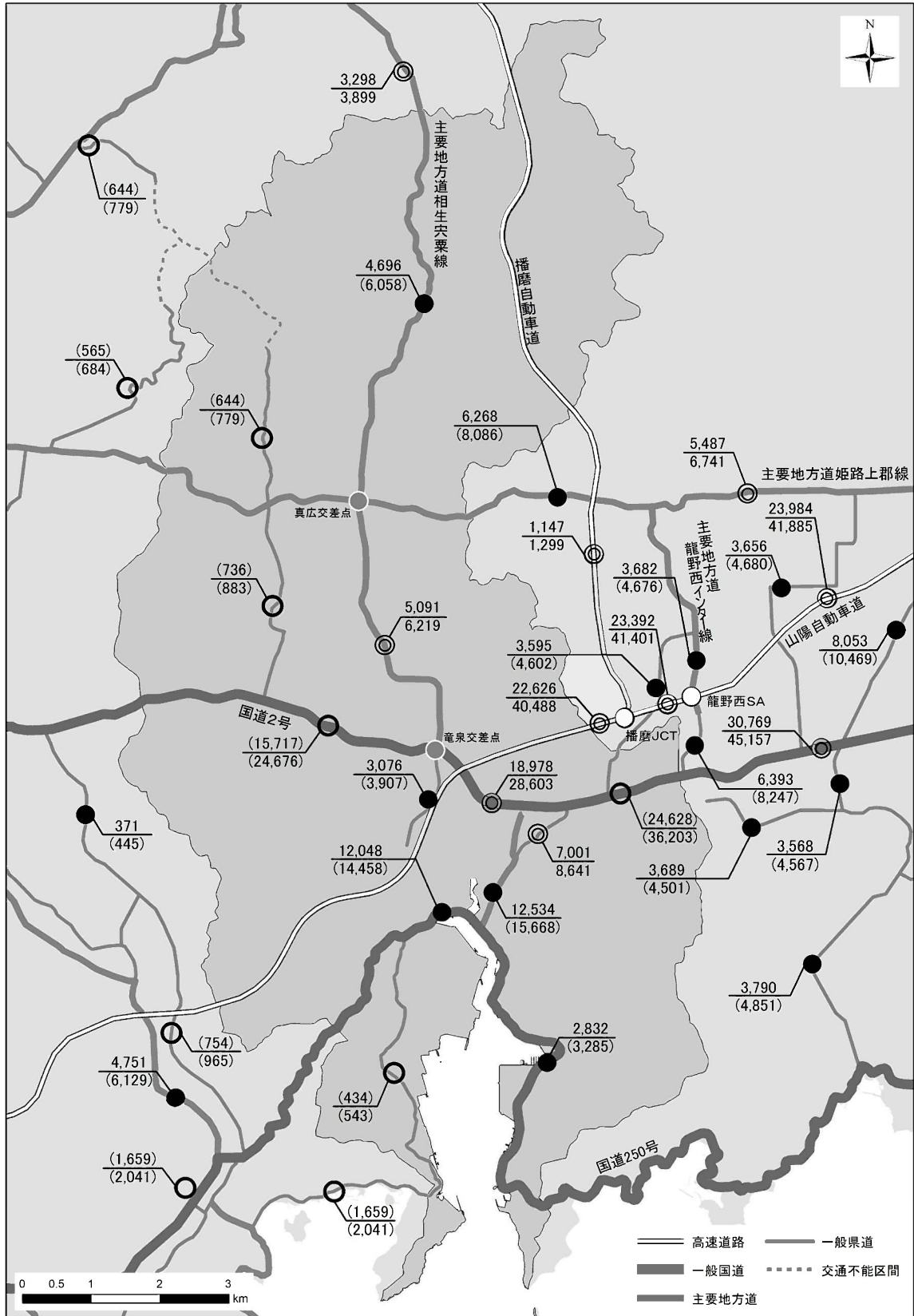
道路網は、主要幹線道路として東西に国道2号、南北に主要地方道相生宍粟線が通り、たつの市に立地する山陽自動車道龍野西ICも近く、広域道路網へのアクセスは便利である。

また、2015年度（平成27年度）の平日昼間12時間交通量は、東西主要幹線道路の国道2号では約15,717台、国道250号では約12,048台となっており、南北の主要幹線道路である主要地方道相生宍粟線（県道44号）では約5,091台となっている。

広域交通網図



自動車交通量（平日）



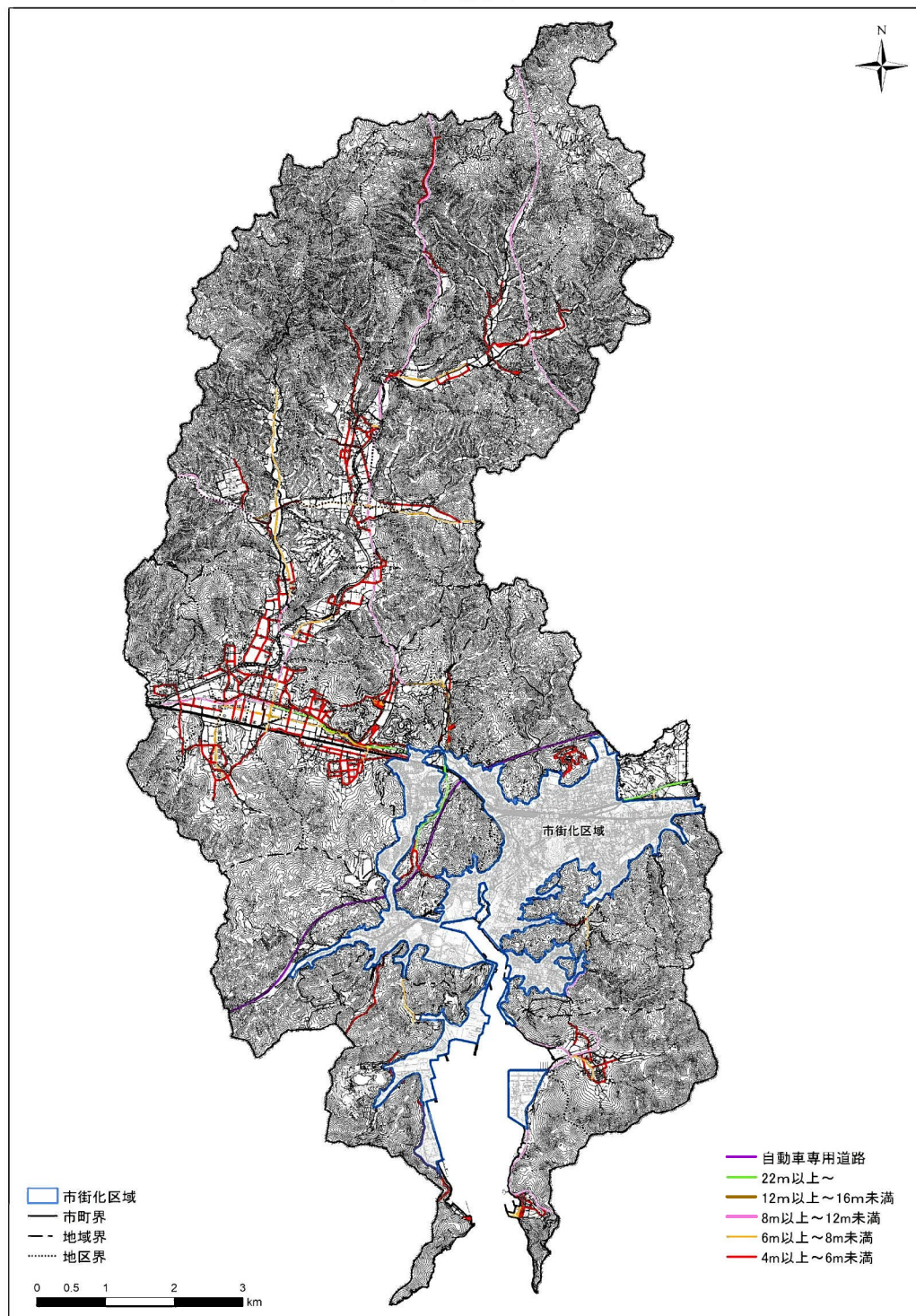
2-5 都市基盤施設の整備状況

(1) 道路整備状況・道路判定状況

1) 道路整備状況

市街化調整区域の道路網は主に 12m 未満の道路から構成されており、地域間は国道 2 号や国道 250 号、主要地方道相生宍粟線によって結ばれている。また、幹線道路へと繋がる生活道路は幅員 4m 以上～6m 未満の道路が多い。

道路整備状況図

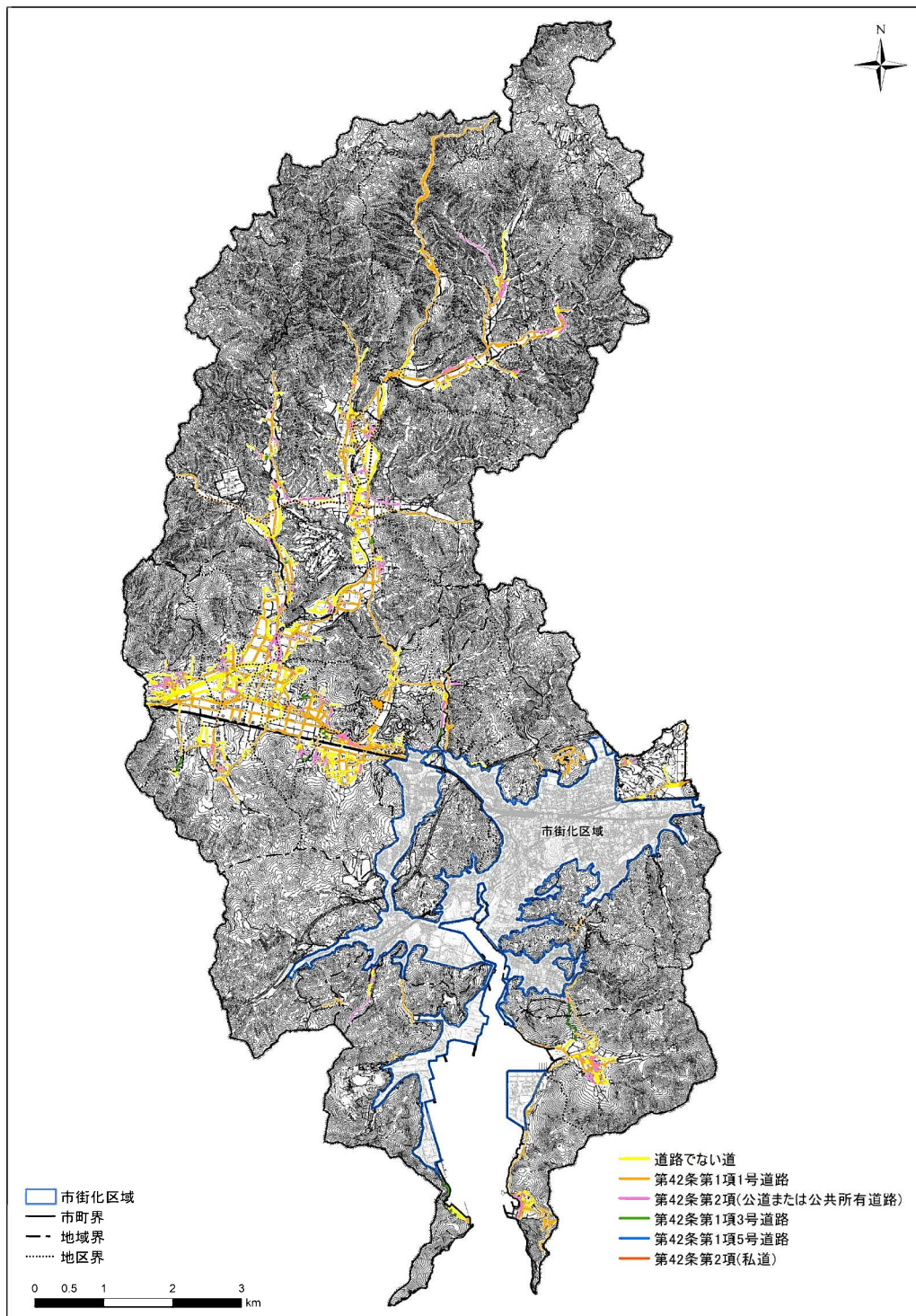


資料：都市計画基礎調査

2) 道路判定状況

集落間は主に建築基準法第42条第1項1号道路で結ばれており、集落内は法第42条第2項道路(公道または公共所有道路)や建築基準法上の道路でない道が多くみられる。

道路判定状況図



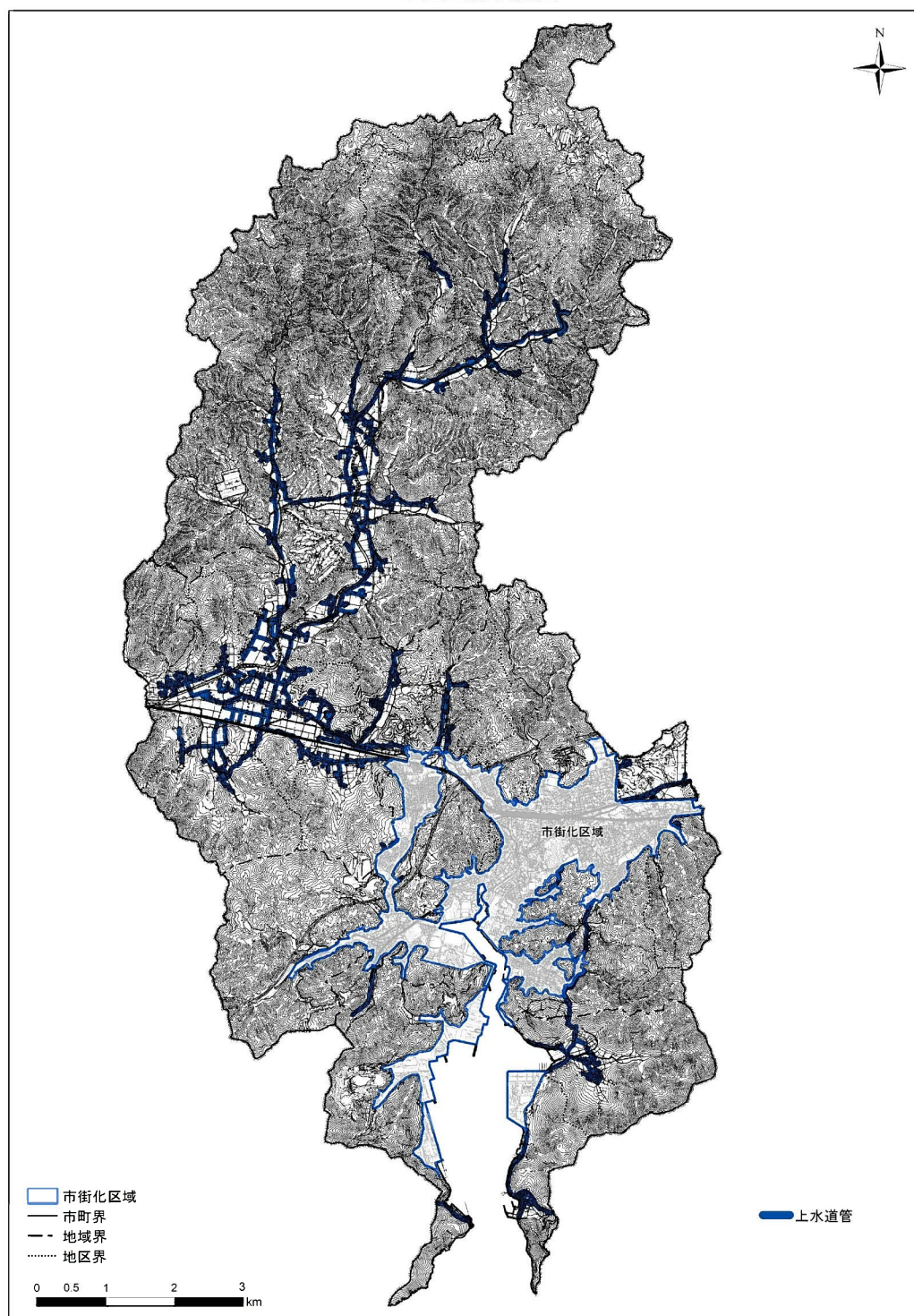
参考：道路判定図（兵庫県）

(2) 上下水道・ガス管の整備状況

1) 上水道の整備状況

本市の上水道は、普及率100%となっている。

上水道整備状況図



資料：西播磨水道企業団

2) 下水道の整備状況

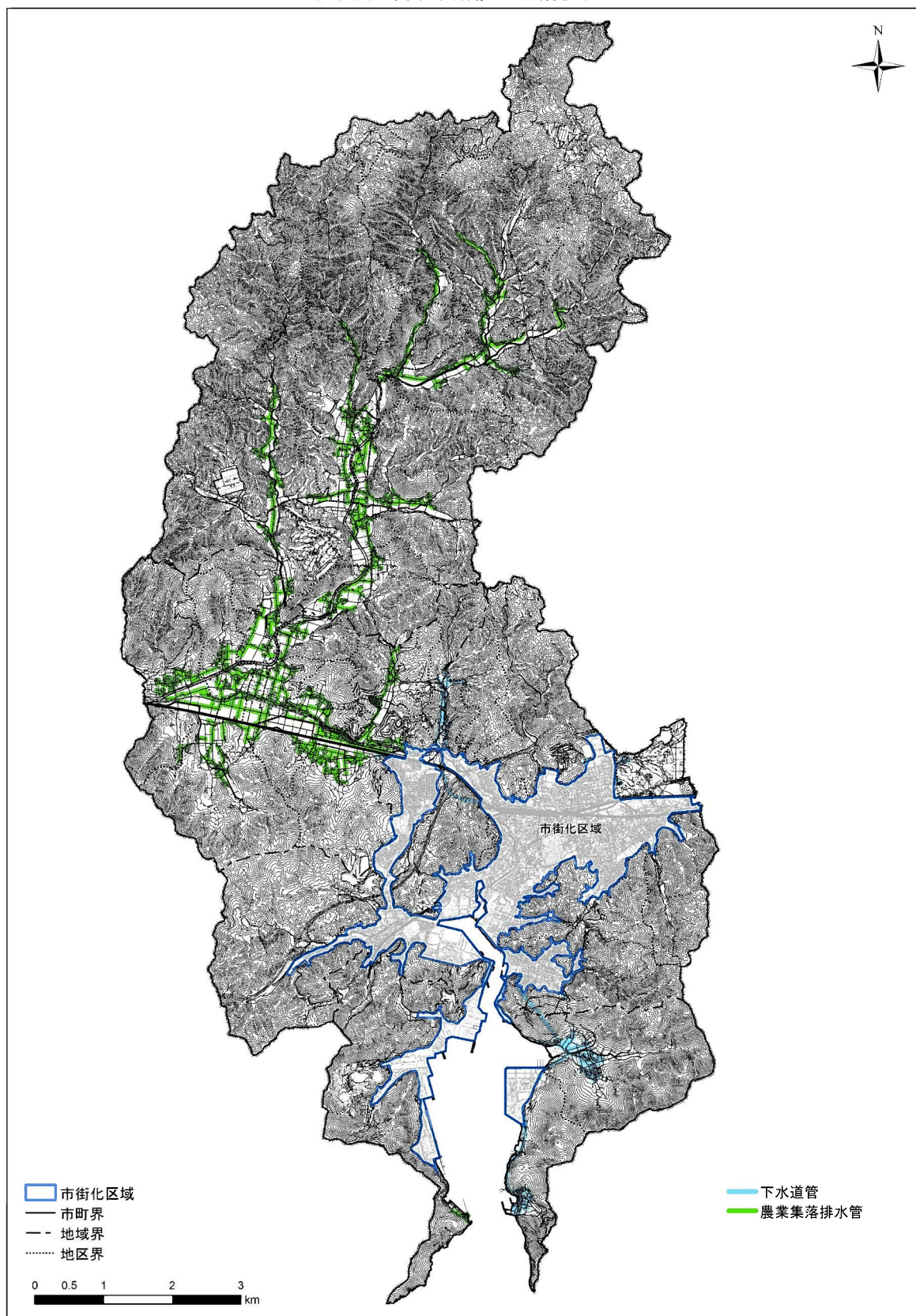
本市の生活排水処理は、公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽で行っている。2017 年度(平成 29 年度)現在では、公共下水道の排水計画面積は 963ha で、整備完了面積 808.39ha、処理区内人口 29,718 人となっており、整備率は 83.9%である。

下水道（農業集落排水を含む）普及状況

年度	計画基本		施工済		整備率
	排水面積	計画人口	排水面積	処理区域内人口	
	(ha)	(人)	(ha)	(人)	
	a	b	c	d	
2013(平成 25)	811	30,800	671.02	26,390	82.7
2014(平成 26)	811	30,800	671.02	26,053	82.7
2015(平成 27)	811	30,800	671.07	26,085	82.7
2016(平成 28)	960	22,600	808.39	29,956	84.2
2017(平成 29)	963	22,600	808.39	29,718	83.9

資料：相生市統計書

下水道・農業集落排水整備状況図

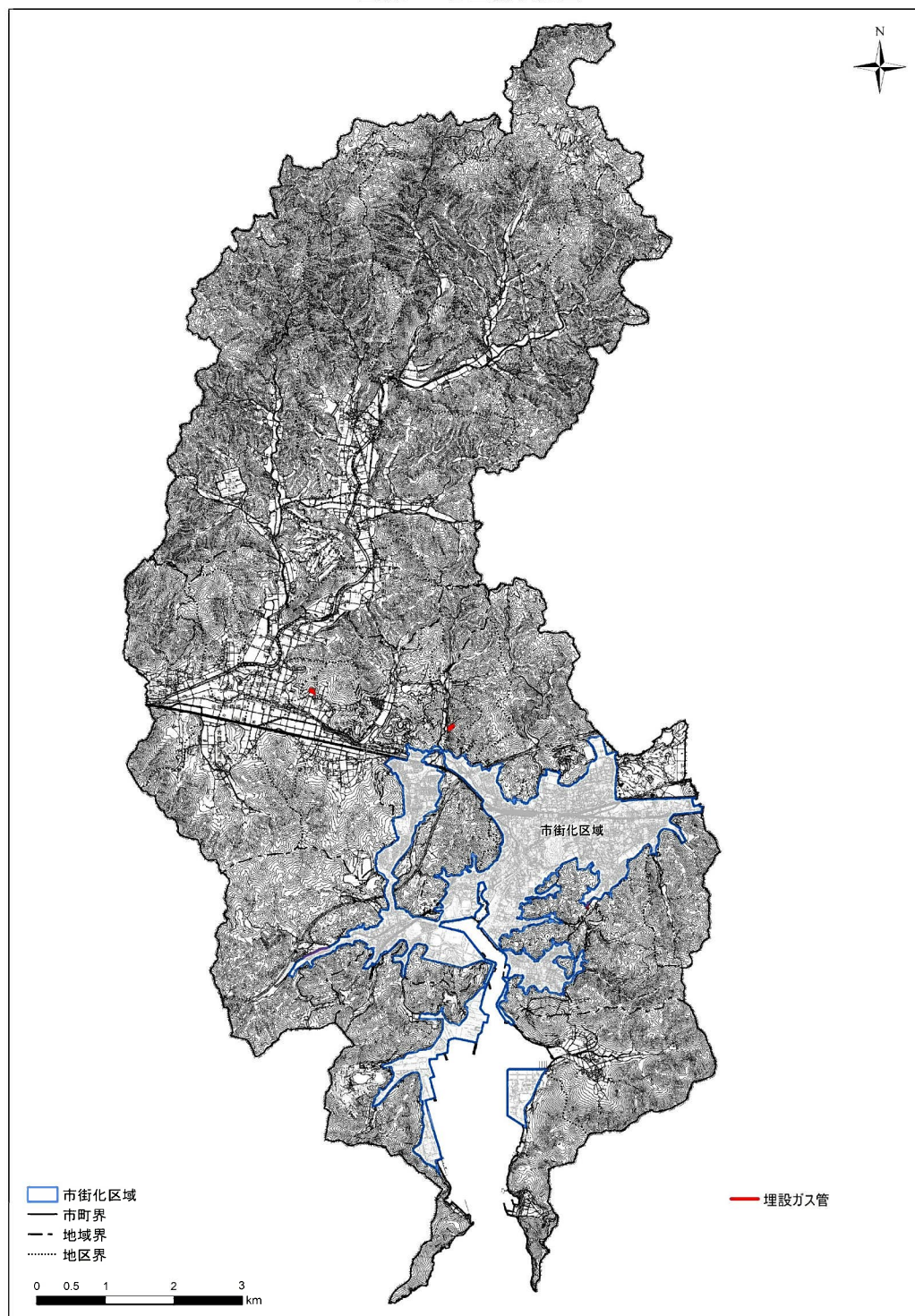


資料：相生市公共下水道台帳、農業集落排水施設台帳

3) 埋設ガス管の整備状況

市街化調整区域内では、市営城谷住宅と若狭野町野々の集落の一部で埋設ガス管が整備されている。

埋設ガス管整備状況図



※市提供資料から作成

2-6 文化財

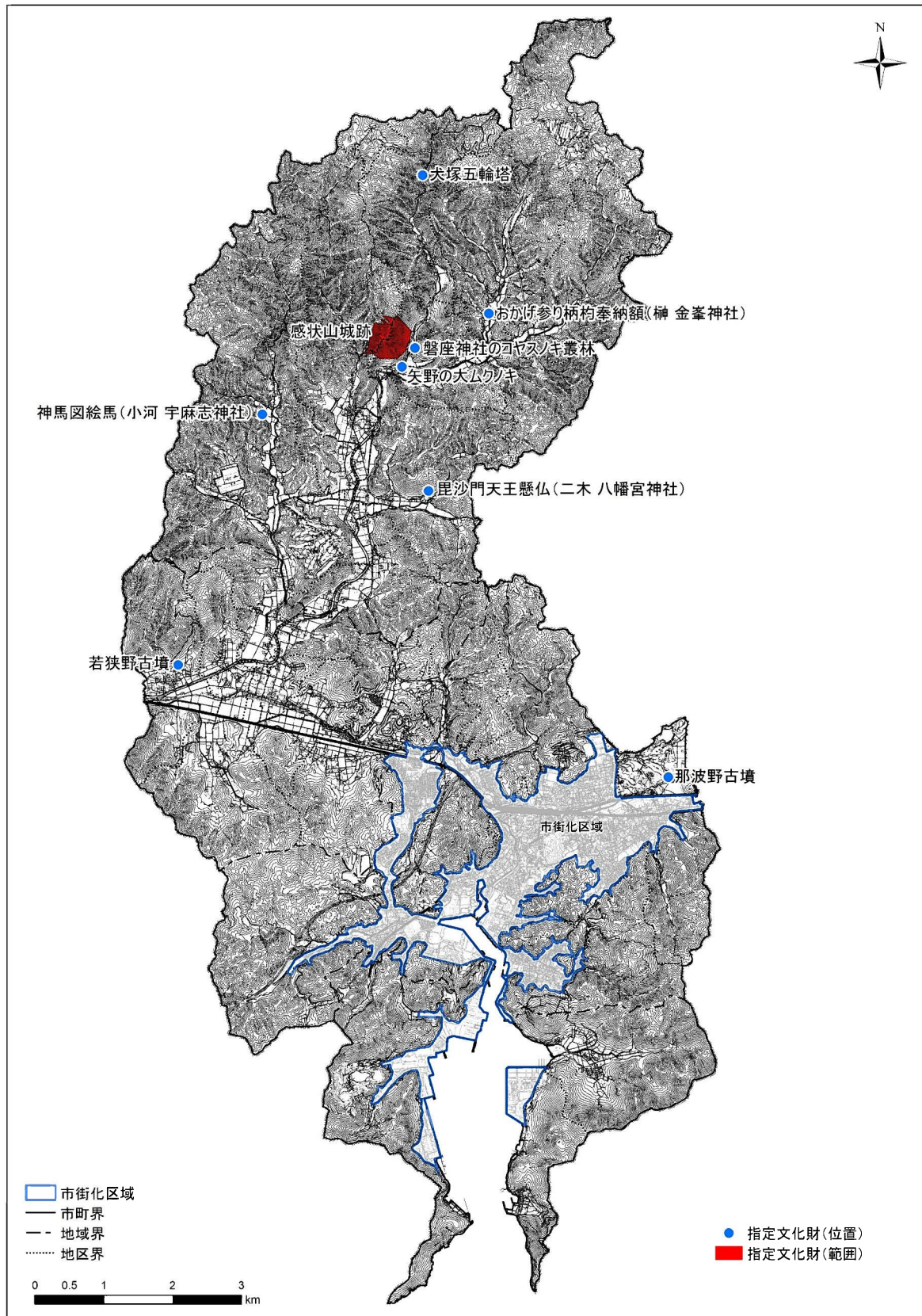
市街化調整区域には国指定史跡の感状山城跡を含め、9つの指定文化財がある。

文化財の指定状況

文化財の名称	指定種別	指定年月日	位置
那波野古墳	県	1980年(昭和55年)3月25日	那波野
磐座神社のコヤスノキ 叢林	県	1983年(昭和58年)3月29日	矢野町森
矢野の大ムクノキ	県	1983年(昭和58年)3月29日	矢野町森
感状山城跡	市 国	1985年(昭和60年)3月30日 1996年(平成8年)3月28日	矢野町瓜生、森
若狭野古墳	県	1985年(昭和60年)3月26日	若狭野町若狭野
犬塚五輪塔	市	1998年(平成10年)1月14日	矢野町能下
毘沙門天王懸仏 (二木 八幡宮神社)	市	1998年(平成10年)1月14日	矢野町二木
おかげ参り柄杓奉納額 (榊 金峯神社)	市	2000年(平成12年)10月25日	矢野町榊
神馬図絵馬 (小河 宇麻志神社)	市	2000年(平成12年)3月29日	矢野町小河

参考：市ホームページ、相生市観光協会公式サイト

指定文化財の場所



参考：市ホームページ、相生市観光協会公式サイト

2-7 法規制状況

本市においては、都市計画法、農業振興地域整備に関する法律、森林法、自然公園法等に基づく土地利用に関する法規制が指定されている。

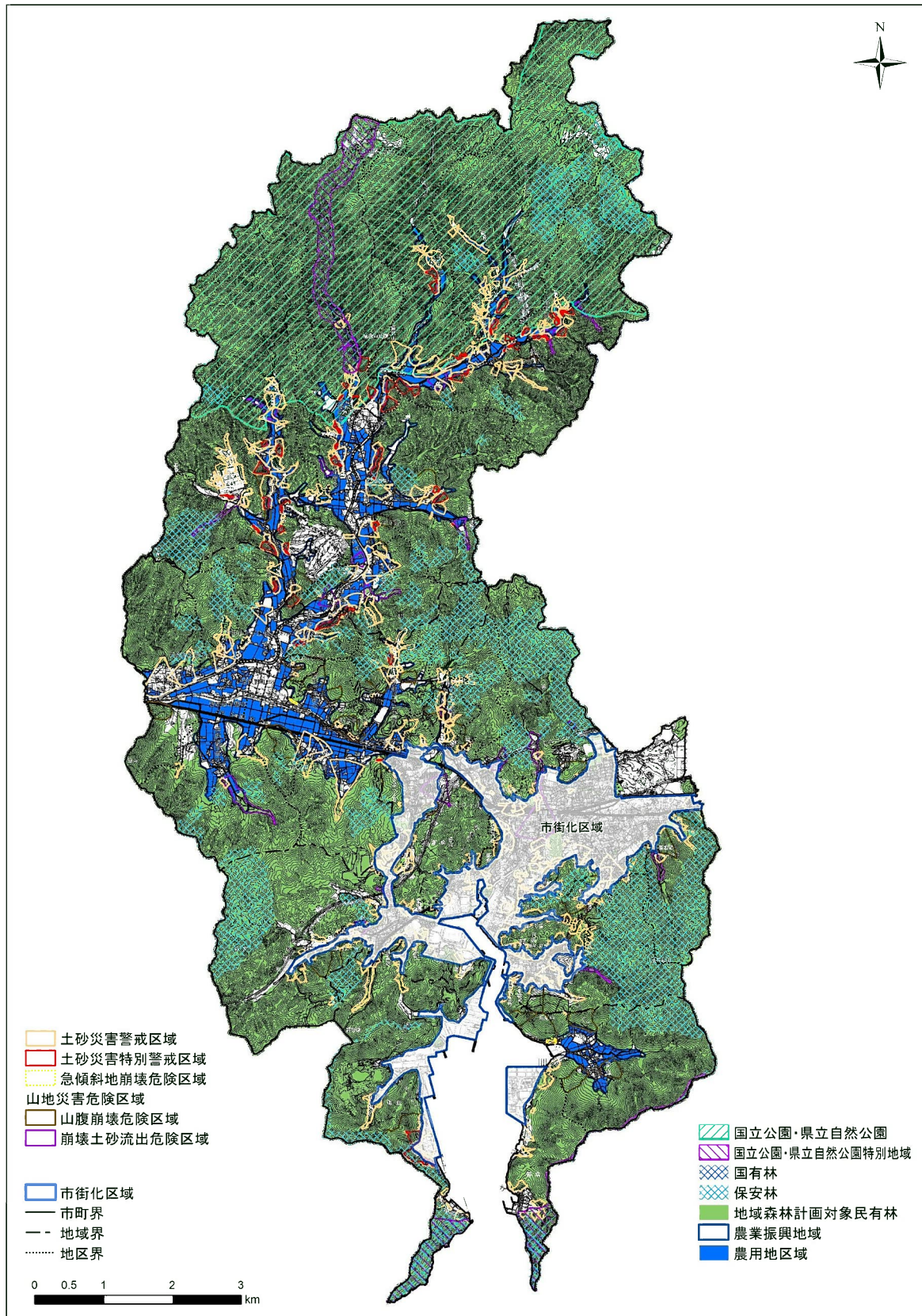
市南端部の金ヶ崎及び釜崎周辺は瀬戸内海国立公園となっており、市北部の丘陵地は西播丘陵県立自然公園となっている。また、山林の多くは地域森林計画対象民有林に指定されている。

農業振興地域の農用地区域は矢野地域、若狭野地域、野瀬地区の多くの農地に指定されている。また、山裾の集落などの一部は土砂災害警戒区域に含まれている。

土地利用規制に係る法指定状況の沿革

地域地区等の名称	指定年月日	根拠法令等
・砂防指定地	1948年(昭和23年)9月11日	・砂防法
・国立公園特別地域	1950年(昭和25年)5月18日	・自然公園法
・海岸保全区域	1964年(昭和39年)8月11日	・海岸法
・県立自然公園特別地域	1965年(昭和40年)6月1日	・兵庫県立自然公園条例
・都市計画区域	1971年(昭和46年)3月16日	・都市計画法
・市街化区域・市街化調整区域	1971年(昭和46年)3月16日	・都市計画法
・急傾斜地崩壊危険区域	1972年(昭和47年)2月12日	・急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律
・農業振興地域	1973年(昭和48年)2月13日	・農業振興地域整備に関する法律
・農業振興地域内農用地区域	1974年(昭和49年)7月9日	・農業振興地域整備に関する法律
・環境緑地保全地域（那波大浜町大島山）	1980年(昭和55年)3月21日	・環境の保全と創造に関する条例
・国有林、保安林、地域森林計画対象民有林	2004年(平成16年)1月16日 (揖保川地域森林計画) 2004年(平成16年)4月1日 (相生市森林計画)	・森林法
・土砂災害警戒区域（土石流、急傾斜地の崩壊）	2009年(平成21年)12月1日	・土砂災害防止法

土地利用規制状況図



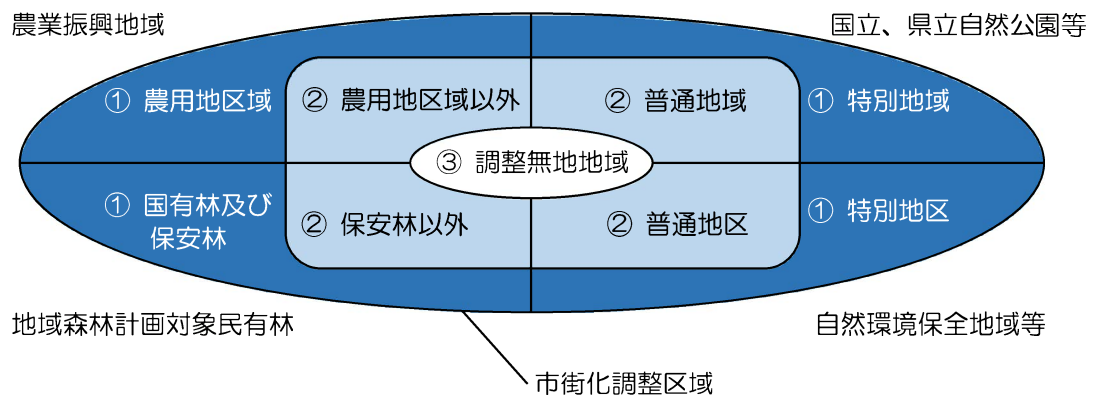
※国土数値情報、相生農業振興地域整備計画書(平成 27 年)、都市計画基礎調査、市資料から作成

(参考)

土地利用規制の強さによる分類（都市計画法を除く）

土地利用規制状況 (都市計画法を除く)	土地利用規制の内容
① 調整青地地域 (規制の強い地域)	・ 農振法による農業振興地域の農用地区域 ・ 森林法による国有林及び地域森林計画対象民有林の保安林 ・ 自然公園法による国立公園、国定公園の特別地域、県立自然公園条例による県立自然公園等の特別区域 ・ 県の環境の保全と創造に関する条例による特別地区 ・ 土砂災害特別警戒区域（急傾斜地崩壊危険区域）
② 調整白地地域 (規制の弱い地域)	・ 農業振興地域の農用地区域以外（農振白地） ・ 地域森林計画対象民有林の保安林以外 ・ 国立公園、国定公園、県立自然公園等の普通地域 ・ 県の環境の保全と創造に関する条例による自然環境保全地域と環境緑地保全地域の普通地区及び自然海浜保全地区
③ 調整無地地域 (規制のない地域)	・ 農業振興地域整備に関する法律、森林法、自然公園法、県立自然公園条例、県の環境の保全と創造に関する条例等の区域外

土地利用規制の強さによる分類イメージ図



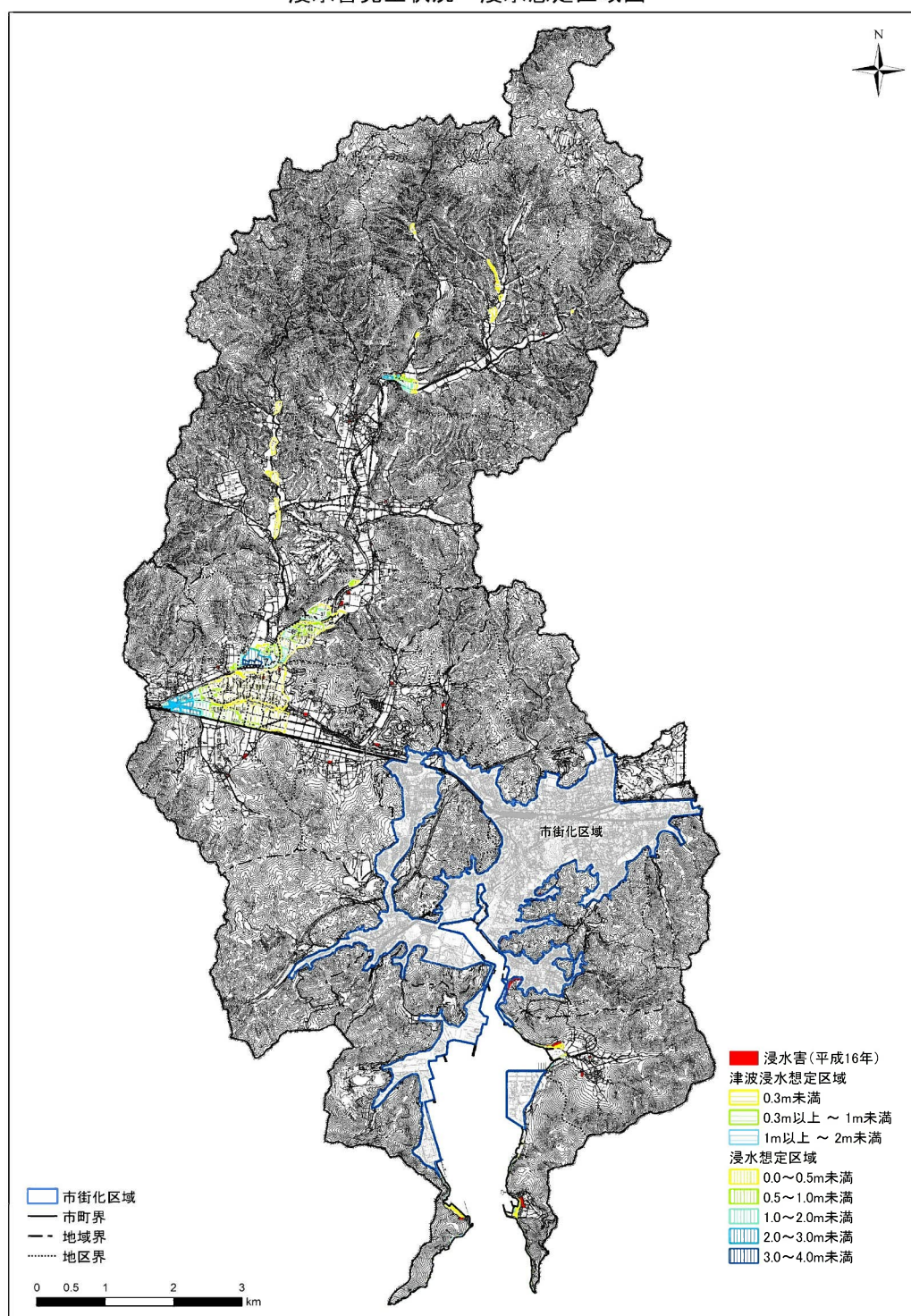
2-8 浸水害発生状況・浸水想定

(1) 浸水害発生状況・浸水想定区域

矢野川や支流の沿川及び相生湾岸等において、平成16年に浸水被害が発生している。

また、矢野地域及び若狭地域等の矢野川周辺では洪水浸水想定区域（計画規模降雨1/50～1/100年確率）が指定されており、相生湾周辺では津波浸水想定区域が指定されている。

浸水害発生状況・浸水想定区域図

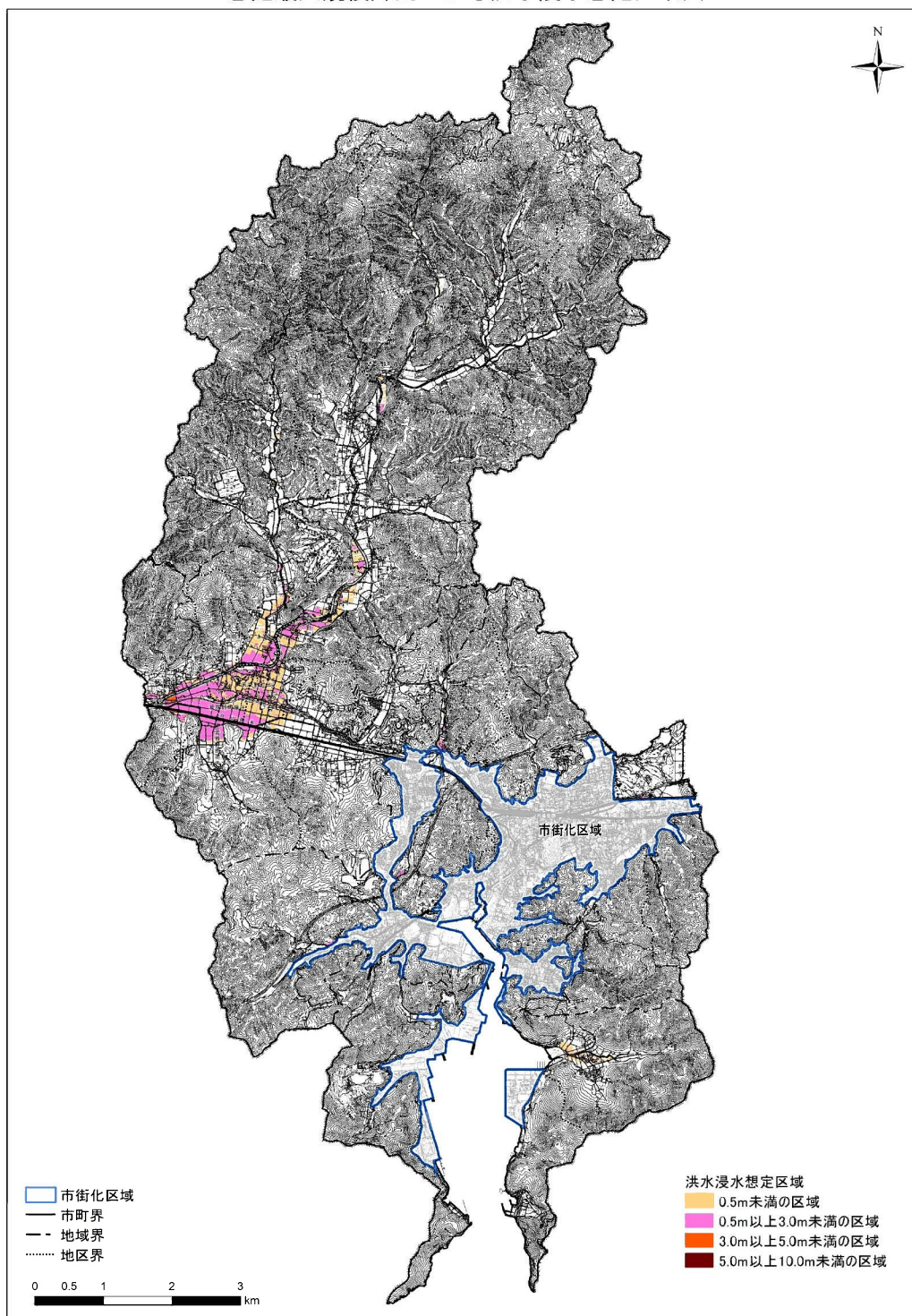


資料：国土数値情報、兵庫県ハザードマップ

(2) 想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域

矢野地域及び若狭野地域の矢野川周辺や竜泉町の苧谷川沿岸、野瀬地区の亀の尾川沿岸では、想定最大規模降雨（1/1,000年確率以上）による洪水浸水想定区域が指定されている。

想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図



資料：兵庫県 想定最大規模降雨の洪水浸水想定区域図

2-9 土地利用状況

(1) 農地転用状況・新築動向

1) 農地転用状況

2013年(平成25年)から2017年(平成29年)の5年間で、市街化調整区域全体として46件の農地転用があった。また、転用目的としては、住宅用地やその他が多い。

地域別でみると、若狭野地域で20件と最も多くなっている。

年度別農地転用件数の推移（市街化調整区域内）

（単位：件）

地域	年度					合計
	2013(平成25)	2014(平成26)	2015(平成27)	2016(平成28)	2017(平成29)	
中央部地域	0	1	0	0	4	5
南部地域	5	0	4	1	0	10
矢野地域	2	2	0	2	5	11
若狭野地域	4	8	6	2	0	20
合計	11	11	10	5	9	46

資料：都市計画基礎調査

2) 新築動向

2013年(平成25年)から2017年(平成29年)の5年間で、市街化調整区域全体として37件の新築があった。また、建築物の用途としては、独立住宅や漁業施設、農業施設が多い。

地域別でみると、農地転用状況と同様に若狭野地域で16件と最も多くなっている。

年度別新築件数の推移（市街化調整区域内）

（単位：件）

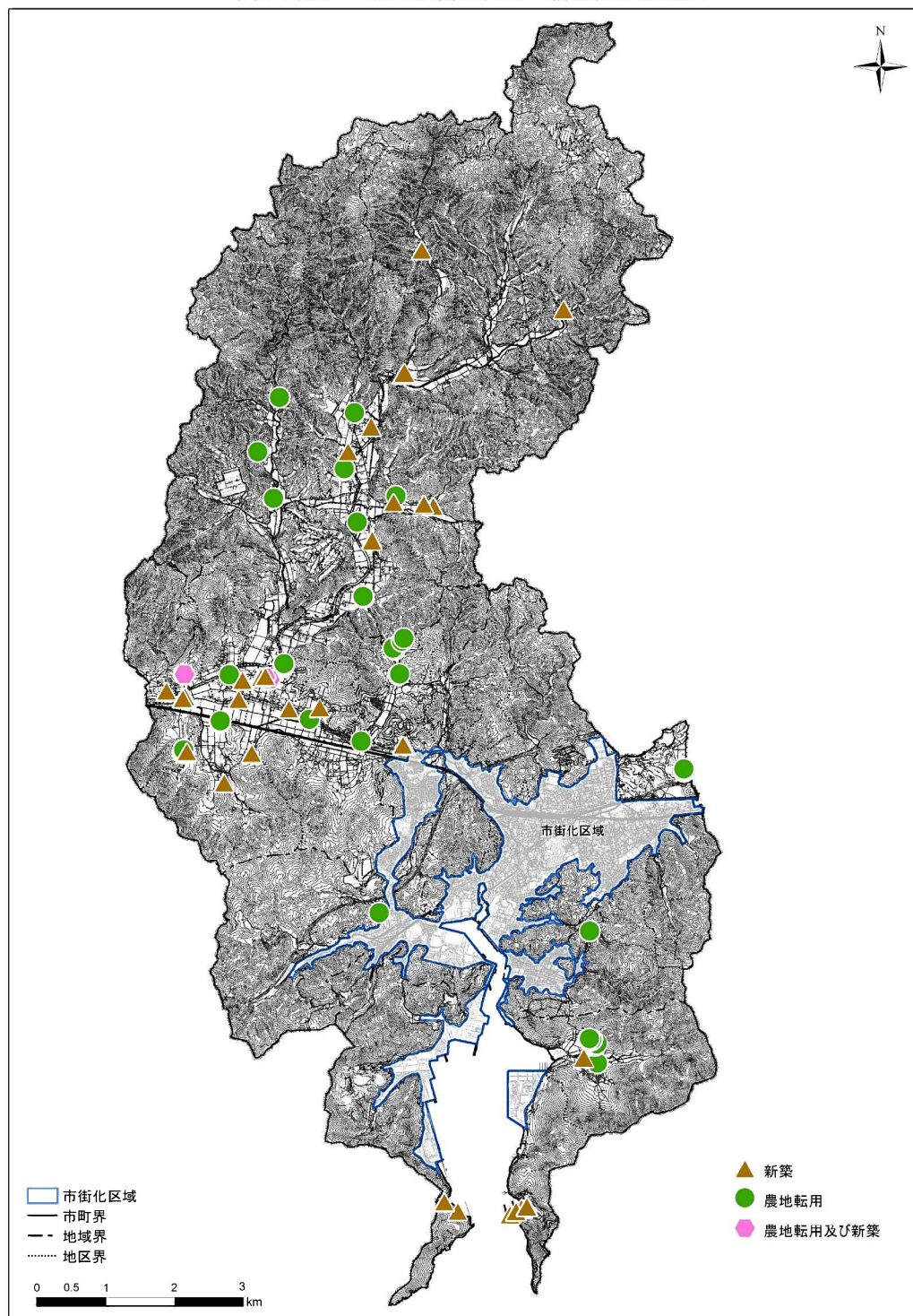
地域	年度					合計
	2013(平成25)	2014(平成26)	2015(平成27)	2016(平成28)	2017(平成29)	
中央部地域	0	0	0	0	1	1
南部地域	3	2	1	1	3	10
矢野地域	1	2	4	2	1	10
若狭野地域	5	3	7	0	1	16
合計	9	7	12	3	6	37

資料：都市計画基礎調査

3) 実施場所の傾向

主要地方道相生栄栗線の周辺と野瀬地区で農地転用が実施されている。また、国道2号や鰺浜、坪根で新築、若狭野地区や八洞交差点周辺で農地転用を伴う新築が実施されている。

市街化調整区域内の農地転用・新築実施状況図



資料：都市計画基礎調査

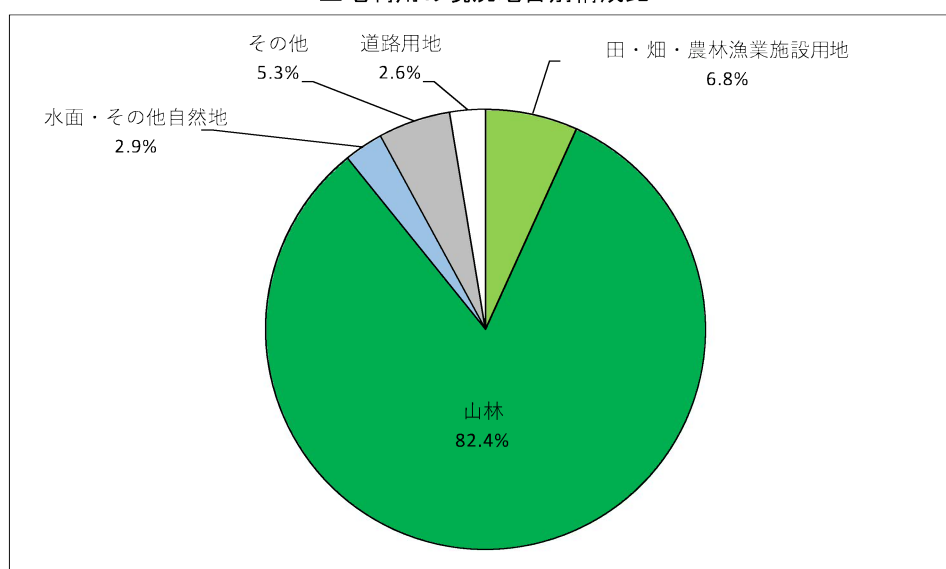
（２）土地利用現況

本市の土地利用は地形条件に大きく制限されており、臨海部と、臨海部に隣接する市街地部、背後の田園・山間部の３部分からなる都市構造を有している。市街化調整区域の現況地目別構成比をみると、山林が全体の約 82.4%、田・畑・農林漁業施設用地が 6.8%、水面・その他自然地が 2.9%となっており、自然的土地利用が大半を占めている。

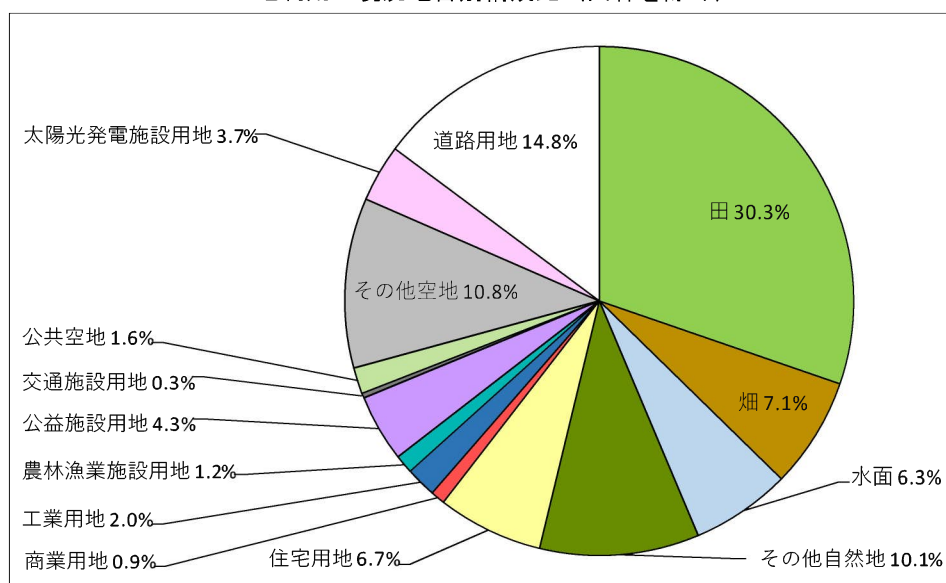
また、山林を除く現況地目別構成比をみると、田が 30.3%、次いで道路用地が 14.8%、資材置場や駐車場などのその他空地が 10.8%、その他自然地が 10.1%となっている。

立地の傾向としては、国道 2 号沿道では商業施設や工場、資材置場、露天駐車場、住宅等が立地し、用途が混在している。また、山間部では大規模太陽光発電施設がみられる。

土地利用の現況地目別構成比



土地利用の現況地目別構成比（山林を除く）



土地利用現況図

